

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193200167		
法人名	医療法人真美会		
事業所名	よしの佐久良都幾川		
所在地	埼玉県比企郡ときがわ町大字田中380-1		
自己評価作成日	令和2年2月5日	評価結果市町村受理日	令和2年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念を基に、食を通じての健康維持や「ご自分の家」として生活していただけるよう、日々取り組んでおります。自然に恵まれた環境で、広い敷地を活かして草花を植えたり野菜を作って収穫して食べたり散歩をしたり楽しむことができます。また、外出の機会をできるだけ作り、お花見、観劇鑑賞、紅葉狩り、お買い物ツアーなども実施している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の住宅地にある2ユニットのグループホームである。よし乃郷グループとして特養やサービス付き高齢者住宅などの介護施設やクリニック、療養型医療施設などを運営しており、グループ内で「介護・医療・介護予防・住まい・生活支援」の5つのサービスを密接に連携させて一体的に提供できる強みがある。ホームでは食を通じての健康維持と「ご自分の家として生活していただく」という基本理念をもとにした支援に取り組んでいる。グループ内で2か月に1回の会議があり、会議中に感染予防や事故対策委員会などの研修報告会を行っている。研修体制が充実しており、全員に研修の機会があり各研修で教育を受けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和2年2月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	隔月ではあるが法人研修にて理念を復唱しており、職員には周知徹底している。その中で食を通じての健康の維持を最大のテーマと捉え、食を楽しむ雰囲気作りや食と体調管理の視点を重視している。	玄関にホームの理念が掲示してある。管理者は隔月、法人の研修で理念を復唱しており職員に周知徹底をしている。食を通じての健康維持、食を楽しむ、食と体調管理の視点を重視している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設が地域住民を迎い入れる機会は面会等に限定される中で、散歩や庭作業等の折に近隣住民と交流し、また利用者の日常行動に触れて頂く機会と捉えている。	自治会に入会しており、地域の方がホームの防災訓練や運営推進会議に参加され、意見をいただく等、交流がある。また、散歩や庭の畑作業などで近所の方と日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人研修に加えて施設内研修にて認知症者への支援方法等について学ぶ機会を設けている。特に短期利用者の家族に対して相談という形で支援をする機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の助言や提案は地域住民の声として真摯に受け止めている。特に利用者の活動や参加の面で以前地域で実施されていた慣習等の提案を頂き早速物作り行事に反映した。(しめ縄作り)	年6回開催を行った。地域の方も積極的に話をしてくれ、「外出は沢山するほうがいいよ」などの意見を頂いている。地域の慣習である「しめ縄作り」などを行事に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ときがわ町を中心とするが、近隣より入居されている町(小川町)との連携を図っている。認定調査時がその主な機会であり、家族の要望等を支援に反映している。	管理者は行政との密な連携を図っており、ホームの様子などを伝えながら良い関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない理由が生じても家族の同意なしで実施することはない。今年度においても直接的に身体を拘束したケースはない。ただし、表玄関については安全確保の観点より一か所のみ施錠している。	前面に道路があり、安全上、表玄関のみ施錠を行っている。身体拘束は行われていない。職員は身体拘束について内部、外部の研修に参加し、全員で方針を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については何度も研修を実施し、利用者の人権への配慮・尊重について理解している。施設内では職員が互いに監視役である、と言う認識を持って虐待を黙認・容認しない環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在「成年後見人」は存在しないが、今後の家族関係の変化により必要となるケースも考えられる。セミナー等に参加し、必要な方に紹介できるように、受付窓口パンフレットを備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族の施設に対する思いや利用者支援に関する要望や疑問を傾聴し、誤解が生じないよう懇切丁寧に説明を加えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡等で意見を伺っている。また、受付窓口意見箱を設置している。相談窓口及び苦情解決担当者、責任者を配置している。	家族より面会時や電話連絡時に意見を伺っている。利用料金を持参して頂いており、その際に意見の吸い上げをしているが、運営に関する意見は特に聞かれていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議においてあるいは日常業務内において気づきや意見等随時傾聴している。改善案等は職員連絡ノートを活用し周知している。	管理者は日頃のケアの中から職員の意見を随時聞いており、月一回の会議や年2回の自己評価の際に傾聴する機会を設けている。出された意見の改善策は職員連絡ノートを活用し周知を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢・経験・性別・常勤・非常勤等の違い更に、勤務時間や曜日等勤務に対する要望がそれぞれ異なるも、職員の勤務の継続を視野に働きやすい環境を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や資格・人格等を総合的に考慮し、日常業務の中で課題を与え考える(問題解決)機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での勉強会や相互訪問を行っている。また、研修会等に参加して他施設との交流を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは傾聴し、その中で必ず安心感を与える事を基本的なケアとして位置づけ実践している。安心感が信頼関係に繋がっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に利用者家族の不安等に応えているも、現実的には利用後に不安感を抱くことが多いので、早めにフォローをするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族は在宅での生活が入居によって保障されるのかを一番心配されている。そのことを理解した上で何が出来るのかを確認させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の信頼関係を築き、自律した生活ができるよう必要とする部分を支援するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会への規制は設けておらず、自由な環境の中で利用者家族との関係性は維持されている。利用者支援に関しては常に家族への報告と相談を行い支援に反映している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会に限定されることなく地域の友人の面会も多い。また施設周辺への散歩や買い物を通じながら、近隣住民との交流が行っている。(先生と教え子の関係など)	教え子や地域の友人が頻繁に面会に来ている。家族により墓参りや命日、誕生日会などに出掛けている。職員は入居時や家族からの情報を参考にしながら関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の得手不得手や性格等を考慮し、話し合いや遊べる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設から在宅へのケースはないが、地域密着型という施設の性格もあり、施設から病院あるいは特養への移動後についても在宅を訪問し家族・利用者との関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅での暮らし方やこだわり等は「その人らしさ」と捉え、利用者本位を基本とし施設においても可能は範囲で保障している。	職員は日頃のケアの中で入居者の表情や言葉から思いや意向をくみ取っている。一人ひとりの意向を大切にした支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「その人らしさ」を知るうえで貴重な情報と捉え、施設内での活動や参加の場面に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々に高齢化、障害の重度化、認知症の進行等様々の課題を抱えている。何が今お困りなのか、何が不利益なのか、利用者本位の視点で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族から意見・要望を伺い、定期的にモニタリングを行い、意見交換や支援方法を話し合い作成している。また、心身の状態変化に合わせて随時見直しをしている。	ケアマネージャーは入居者や家族の意向を確認し、職員全員の意見を聞き介護計画を作成している。通常は6か月毎にプランの更新を行っているが変化のあった場合は随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者毎に「経過記録」があり、日常的に行われるレクや体操に加えて体調や言動変化への気づきも記録している。職員は問題行動が顕著の場合、記録物に加えさらに情報を収集し、分析し対策をとっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設が地域密着型として家族を含めた地域住民の福祉・介護等の相談窓口であることを自覚し、他の社会資源の紹介や仲介も積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉に特化した資源に限らず、神社や学校、農協の販売所等も散策の目的地として活用している。外出は利用者の精神衛生上大変有効であると捉えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の利用や外来での受診は、家族の意向を伺い対応している。協力医の往診が行われ、重篤になる前に早期治療が行っているケースが多い。	法人グループの医療機関が月2回、往診している。そのほか個別に月一回の往診がある。歯科は随時家族または職員が付き添い、受診に出掛けている。これまでのかかりつけ医の受診に関しては家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見早期治療を意識し、常に利用者の体調変化に注視している。変化への気づきは介護・看護職で共有し、状態によっては家族へ報告し、今後の対応を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医や病院関係者との連携を行っている。担当看護師や相談員などと連絡を取り合い情報交換や相談を行い、早期退院ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度や終末期に向けた方針は、入居時に説明をし、本人、家族の意向を大切に考え、可能な限り生活できるよう支援している。心身の変化の都度今後の方向性を確認している。	入居時に重度化や終末期に向けた方針について説明を行っている。ホームでは本人と家族の意向を大切にし可能な限りホームで生活ができるよう、支援をしているが看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については法人内の研修にて実施されている。さらに施設内においても管内の消防署に依頼し救急救命の指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中帯・夜間帯における火災・地震を想定した避難訓練を年2回実施している。訓練時には近隣住民や町職員や運営推進委員にも参加して頂き、協力体制を構築している。	年2回の防災訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も行われている。地域住民や町の職員、運営推進委員の参加があり、地域の方々との協力関係ができている。備蓄も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や生活歴を基に支援に対する要望等を把握し、一人ひとりに声かけや対応を工夫している。	一人ひとりの人格を尊重し、声掛けにも注意を払っている。個々に応じた対応にも配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけることはせず、常に利用者を自律的に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズム(生活関連動作他)を尊重している。「参加」については一切強制していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが整えられるよう、さりげなく声かけを行い、外出や行事の時は、おしゃれを楽しんでもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査をして個々の食事に配慮している。セレクトメニューやバイキングを取り入れ楽しんでいただいている。食事前の「お口の体操」やテーブル拭き、下膳など職員と一緒にやっている。	「食」には重きを置いており、外食に出掛けたりセレクトメニューやバイキングの日を設けるなど「食」を楽しんで頂いている。入居者はテーブル拭きや下膳など、できることを職員とやっている。おやつ作りもみんなで好きなものを作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を細部に記録し、常に過不足に注視している。食事・水分が少ない場合は栄養士と相談し状態に応じた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食物残渣は誤嚥にもつながる為、毎食後に歯磨きを実施している。職員はできない部分を介助している。月1回歯科衛生士が口腔ケア指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行って、トイレでの排泄を促している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っており、トイレでの排泄を促した自立に向けた支援を行っている。現在、失禁者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品などを多く取り入れたメニューや運動を行い、便秘予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後に入浴の時間を設けている。利用者がその日の気分で時間を決めることができる。菖蒲湯やゆず湯など季節に合わせて実施している。	入浴は週2回以上支援している。入居者の希望により午前と午後の入浴に分け、拒否などがみられたときは翌日にするなど、無理強いはしない対応をしている。季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別支援を基本とし、利用者が自分の生活リズムに合わせて休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は職員に対して口頭・書面で適宜適切に周知している。さらに服薬開始からの体調変化等も適切に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内では物づくり、おやつレク、誕生会に加え季節の行事や庭作業(植物・野菜栽培)を用意している。利用者の得手不得手の部分が反映され、積極的な参加が見られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望に応じて、ご自宅や買い物へ行ったりしている。季節に合わせて外出レクを企画している。利用者の移動能力等を勘案しながら、希望に添えるように対応している。	天気の良い日にはみんなで近隣へ散歩に出かけている。入居者の希望により洋服などの買い物に出掛けたりしている。車で花見や紅葉見物に遠出をすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には個人でお金を所持している方もいるが、所持に関しては家族に紛失等のリスクがある事をお伝えした上で、家族判断としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所有する利用者が現在3名入居されており、携帯電話の規制は行っていない。利用者が施設の電話を利用することもある。年賀状や手紙のやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面等はピンクが基本カラーになっており、全体的に明るいイメージに設計されている。居室の掃き出し窓は内鍵で夜間のみ施錠している。利用者が自由にベランダに出て外の景色を眺め、外気を吸える環境になっている。	玄関に手作りの雛人形が飾られており季節が感じられ、広いリビングは高い天井と2か所の天窗があり、自然の採光で明るい。温度や湿度が適切にコントロールされ清潔な空間になっている。畳のコーナーもあり入居者が時折、利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には所定の席が設けられているが、長椅子あるいは空き席も複数あり、その日の気分や会話仲間との関係、テレビ鑑賞等で自由に席を移動している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはベット・洋服ダンス・トイレ・洗面台が設置されているが、好みや習慣に合わせて自由に持ち込んでいただいている。	リビングの周りを取り囲むように居室が配置されており、各部屋にはトイレと洗面台が設置してある。馴染みの物を自由に持ち込んで頂き、その方らしい部屋になっている。職員が毎日清掃をし、環境整備に努め、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常にアセスメントを実施し出来る事や出来ない事を確認しながらケアプランを作成・変更し支援に反映している。		